

柏市長賞

私のヒーロー

柏市立光ヶ丘中学校 第三学年 高橋 そら

私は生まれつき、病気があったので赤ちゃんの頃に手術を受けました。本当なら何百万のお金が必要なのですが、実際は数万のお金で済んだのだそうです。なぜなら、国民の皆さんが納めた税金が、私を助けてくださったからです。幼い頃に何度も聞いて、今でも覚えている言葉があります。それは、病院でお金を払ったあとの母が、口癖のように言っていた言葉です。

「今、貧乏にならずに健康に暮らしているのは、手術の時に柏市がお金をくれたおかげ。」と。そのときは、なぜ柏市が私にお金をくれたのだろうと疑問に思っていました。歳を重ねていくにつれて、これが社会保障制度であるということを知りました。

国税庁によると、そもそも社会保障とは、『私たちが安心して生活していくために必要な医療、年金、福祉、介護、生活保護などの公的サービスのこと』だそうです。実は、この社会保障が、国の税金の中で一番多く使われているそうです。日本の社会保障は、一九六〇年代には失業対策や生活保護などが中心だったみたいです。その後に、医療保険の制度や年金制度としても取り入れられるようになったようです。つまり、もしも私が、祖父母と同じくらいの年代に生まれていたら、多額の治療費を払うために、家族を苦しめていたかもしれません。そう思うと、この時代に生まれてよかったと思います。頂く側の者にとつてはありがたいことだらけですが、もちろん、社会保障関係費にも課題はあるそうです。日本で少子高齢化が進んでいることは、言うまでもないです。それによって、社会保障費としての出費が、日本経済の収入よりも増えてしまうという予想ができます。国税庁はこの問題を解決するためには、社会保障制度の見直しをすることも視野に入れて話しています。また、風邪を引いたりしたときに病院に受診した場合、三百円で診てもらえるのも社会保障制度のおかげです。柏市では、少し前まで中学生までの市民が対象であったのですが、今では高校生までの市民が対象となりました。案外、普通に生活をしていく中でも、とても身近にあるものです。

近年、百円の商品を買うと百一〇円になってしまうようになりました。この消費税が十%になることだけ聞くと、私もあまり好印象は持てませんでした。ですが、こうして私のことを助けてくれたりと、その後の使い道を理解するようになると、税金を払うことも大切だと思います。私にできることは小さなことですが、私がしてもらったように、将来働いて、私の稼いだお金が社会保障金として誰かのヒーローになれたらいいです。